

唐丹中学校 出前授業（放射線観察）

日時： 2015年3月2日

場所： 釜石市立唐丹中学校

参加者： 中学3年生 16名

単元： 中3「いろいろなエネルギー」

講師： 竹下 陽子（お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 特任講師）

実施方法：

本単元では、原子力発電について燃料から発生する放射線への正しい知識を得ることが求められているが、目に見えない放射線の存在を理解するための教材開発は、なかなか困難である。そこで、お茶の水女子大学で開発した手作りの放射線観察装置（霧箱※）と、高価でなかなか学校では買えない放射線測定器を貸し出し、放射線についてより効果的に理解を促す授業プログラムを出前授業として実施した。観察活動および放射線の測定については、4人グループで活動を行い、いずれもワークシートを用いた。

※霧箱は、特殊な環境下で放射線が通った飛跡を目で確認することができる

実施結果：

生徒たちは、観察活動を通して、教科書にある文字や数字のみでは分からない、放射線が通った跡「飛跡」を確認することができた。この活動を通して、放射線の種類や特徴をより深く理解することにつながった。この様子は、3月2日めんこいTVで放送、3月3日岩手日報に掲載されました。

感想：

放射線と放射能の違い、シーベルトとベクレルの意味を知ることができた、とても貴重な時間でした。防ぎ方、放射線がどこから来るのかも知ることができ、身近に感じることができました。

